広島県代協　第18回定時総会を開く

会員との連携と協力が何より重要

会員同士の交流を深める

事業年度目標を4年連続達成

広島県代協（井手秀樹会長）は、5月22日13時30分から、広島市中区の広島県総合体育館中会議室で、第18回（第19期）定時総会ならびに記念公演を開催した。新会長に近藤展弘氏が選出され、井手会長の流れを止めることなく、次の時代に繋いでいきたいと決意表明した。また、記念講演では、日本代協の金澤亨専務理事が「変革の最前線。制度改正から読み解く　代理店の生存戦略」をテーマに講演を行った。

総会のようす

総会の開催にあたり、井手会長が「昨年度は皆様の努力のお陰で事業年度目標を4年度連続で達成できた。我われを取り巻く環境は大きく変化している。今こそ代協会員は自己啓発、自己研磨に努め、顧客本位の業務運営を徹底し、業務品質のレベルアップを図り、お客様から信頼される代理店経営をしていかなければならない。今年も広島県代協では会員の皆様とともに、保険業界の健全な発展と地域社会への貢献に向け、活動を推進していく。会員同士で『集い、語らい、高め合う』交流を深めていただきたい」と挨拶した。

井手会長

続いて、損保協会中国・四国支部の山田高弘事務局長が同支部の中村一樹委員長の挨拶を代読し、「お客様と社会からの信頼回復に係る取組みの中で、保険代理店の募集品質向上に関するものについては、当協会内に代理店業務品質強化本部を設置し、4月から運用を開始した。代理店の皆様と保険会社が自己点検チェックシートの点検結果を踏まえ、対話を重ねることで必要な体制整備を行い、業界全体で募集品質の向上を高めていく。また、『募集コンプライアンスガイド』を改正しておりご一読願いたい」と述べた。

総会には会員数198名、出席43名、表決権行使の委任状提出99名となり成立したことが報告された。付議事項では6つの議案が報告され、いずれも承認された。事業報告では各委員会の委員長が発表。新会員数に関しては日本代協目標8店に対して8店の入会、損害保険大学課程コンサルティングコース申込目標17名に対して55名の申込み、そしてぼうさい探検隊マップコンクール目標3件に対して4件となり、いずれも目標を達成したことが報告された。

近藤新会長

その後、役員会で新会長に選任された近藤展弘氏は「前任の井手会長が築いてこられたことをしっかり受け止め、その流れを止めることなく、次の時代に繋いでいきたい。私たちを取り巻く環境はこれまで以上に複雑で厳しいものになると予想される。損保業界においても、より高度な専門性と倫理観を通して、顧客本位の姿勢が一層求められる時代となった。このような中でこそ、会員の皆様との連携と協力が何より重要である。皆様と協力し合い知恵を出し合いながらこの難しい時代を乗り越え、そして業界の発展と信頼の回復に努めていきたい」と挨拶した。

休憩をはさんで行われた記念講演では、日本代協の金澤亨専務理事が「変革の最前線。制度改正から読み解く　代理店の生存戦略」をテーマに登壇した。まず同氏は、一連の不祥事判明後の代協の対応として、「我われ自身は自社のお客様としっかり向き合い、いかにお客様に価値提供していくかに注力していくべき」という小田島会長のメッセージを金融庁に示したこと、さらに有識者会議開催までの金融庁とのやり取りについて解説。そして、今年6月の改正保険業法に至るまでに金融庁、損保協会で議論、検討された概要を説明した。その中で代理店の自己点検チェックは2016年の保険業法改正時に求められていたことが今回明確にされたものと考えるべきで、代理店のチャネル、規模を問わず求められている内容であるとの認識であるとした。

金澤専務理事

日本代協・金澤専務理事が講演

そして、代理店の経営戦略として、お客様が保険に関することを誰かに相談したいと思ったときに、お客様の頭の中に一番最初に浮かぶ存在となることが重要であるとし、店主は顧客本位の業務運営を企業文化として定着させるためにそのスタンスを従業員に示すことだと述べた。そして、同氏が社長を務めた時代にお客様に「ありがとう」と言ってもらえる取組み実践例を紹介し、このお客様からの声が社員の成長の原動力になるとし、「ありがとう」を追求し続けることが顧客本位の業務運営を貫くことになると強調した。

そして最後に、同氏は、「人は、信頼できる人から入った方が安心する。デジタルやAIを駆使しながらも、お客様対応において引き続き担う役割は必ずある。代理店の仕事は〝未来に残る仕事〟である」と締めくくった。

埼玉代協

時代は変わってもお客様を大切にする

顧客本位の業務運営の環境整備に尽力（関東財務局）

塩野会長

埼玉代協（塩野忠会長）は5月21日、埼玉ソニックシティ国際会議室（埼玉県さいたま市）で第18回通常総会を開催した。塩野会長はコロナ禍で活動が制限された期間を含めた3期6年を振り返り、感謝の意を示すとともに、顧客本位の業務運営の重要性とセミナー等を通じた支援の継続を約束した。総会は357会員のうち296会員（会場25、委任状271）が出席。5つの議案を審議し、全て承認された。総会後は朝日新聞社の柴田秀並氏による基調講演が行われた。

総会に先立ち挨拶に立った塩野会長は、「就任初年度はコロナ禍の始まりと重なり、活動の多くが制約され十分な取組みができなかったものの、3年目以降ようやく活動が再開され直近3年間で目指してきた施策が徐々に形となった」と6年間を振り返った。また、2年前に初めて日本代協の「三冠王」を達成し昨年も連続受賞を果たしたこと、今年度も新規会員を迎え好調なスタートを切っていると報告した。一方で、損保業界では不祥事や制度改正が相次ぎ、代理店を取り巻く環境は厳しさを増していると示唆。自然災害やAI等デジタル技術の進展は大きな変化をもたらすが、法令順守と顧客本位の業務運営を徹底し、その上でいかなる価値を提供できるかが問われると指摘し、「時代が変わっても『お客様を大切にする』という原点は不変であり、埼玉代協としてもセミナーや提携先拡充を通じ、会員の発展を支えていく」と述べ、さらなる支援を約束した。

来賓として関東財務局理財部金融監督第4課の吉田雅輝氏が挨拶。6月の改正保険業法施行を前に、関東財務局は制度の実施状況を丁寧な対話を通じて把握していく考えを示した。顧客本位の業務運営の徹底や再発防止策の実効性確保、保険契約者保護と保険業の健全な発展、業界全体の実態解明等が求められており、同氏は「改正法は規制強化の側面が大きいが、現場の実情を踏まえながら運用状況を確認していく方針」と述べた。また、顧客本位の姿勢こそ最も重要であり、代理店は顧客と接する第一線として極めて重要な役割を担うと指摘した。その上で、「監督当局としては不適切事案の再発防止を徹底するだけでなく、代理店が顧客本位の取組みを着実に進められる環境整備にも尽力する」と強調した。さらに7月以降は新体制の下で施行内容の確認を進める予定だとし、「現場の声を丁寧に拾い上げて金融庁にもつなぎ、代理店がより実践しやすい制度運用の在り方を探る」と述べ、今後も保険行政への理解と協力を求めた。日本代協の小田島綾子会長の挨拶が代読されたほか、多くの来賓から埼玉代協への期待が寄せられた。

通常総会は第1号議案：2025年度事業報告及び収支計算書等承認の件／第2号議案：2026年度会員会費額（案）承認の件／第3号議案：役員任期満了に伴う改選に関する件／第4号議案：2026年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件／第5号議案：本総会の決議に反しない限りその修正を会長に一任する件―の5議案を審議、全て賛成多数で可決された。

役員の任期満了に伴う改選が行われ、新たに澁田昇氏が会長に選出された。澁田氏は、「代理店店主や募集人は孤独を感じることもあるが、代協という場に共通の悩みを持つ者が集い、解決策を見つけ、高め合える。私も埼玉代協に助けられてきた」と代協の役割を示唆。「会員のみならず、保険会社や地域社会への貢献のため精いっぱい頑張る」と決意を表明し、協力を呼びかけた。

澁田新会長

総会後の基調講演は、朝日新聞社の記者で「損保の闇　生保の裏」の著者でもある柴田氏が「これから生き残る損保代理店はきっと〇〇だと思う」と題して、保険業界の動向や当局が保険業界に求めること、生き残る代理店像等について解説した。

会員のみならず、保険会社、地域社会に貢献